

デジタル受付と自動出荷設備、設備状態監視システムを構築し、大分センターアスコンと別府サテライトアスコンへの導入を計画。23年度は、製造設備の自動化として、アスファルトプラントへの材料供給自動化など、重機を必要としないプラント設備を構築し、大分センターアスコンへの導入を計画し、これらを通じて全体最適化を図る。

デジタルで効率化

大林道路工
田中铁工

アスファルト プラント統合管理 23年度から実装

大林道路は、田中铁工（佐賀県基山町、古賀武志社長）と共同で、アスファルトプラントの効率化を進めている。業務や書類、設備のデジタル化で自動化を図り、働き方改革、カーボンニュートラルに貢献するほか、人材不足に対応する。今年度からの3カ年



手前が自動開閉ゲートと車番認証システム。その先は自動計量装置（別府サテライトアスコン）

計画で、2023年度に統合管理システムを構築し、拠点プラントに順次実装する。現在、大分センターアスコン（大林道路・日伸建設工業JV、大分市）と別府サテライトアスコン（大林道路、大分県別府市）で、製造管理業務の自動化、最適化に向けた検証などを行っている。

効率化に向けて、自社の製造ノウハウの形式知化、入力など単純作業のシステム化、原材料と製造量の日々管理によるプラント運転の最適化、出荷管理や入退場管理のシステム化、重機を使用しない材料供給設備や貯蔵設備への改修、設備の集中管理として、監視制御機能による遠隔地からの出荷状況や状態監視の実現に取り組む。

計画では、21年度をフェー

ズ1とし、無人出荷のための要素技術検証を実施。22年度をフェーズ2とし、リモート出荷検証（サイロから本体）、複数のプラントの集中制御システム計画、材料供給ライン設備改変計画などを行う。23年度のフェーズ3でリモート全般の検証、統合管理システムを構築する。

現在、産廃マニフェスト管理システムを検証している。契約書のデータ化など廃棄物処理に関する契約の管理、トラックスケールとの連携（自動計量）、マニフェスト処理（紙）のデータ化といった受け入れ処理の効率化を、大分センターアスコンと別府サテライトアスコンで進めている。また、自動開閉ゲートと車番認証システムで入退場車両を管理し、車両番号、画像をデータ化して各システムとデータ共有する場内入退場車両管理を別府サテライトアスコンに導入している。

22年度には、製造業務の効率化のため、人を介さないデ

